

サビエル生誕五百年



藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

右肩から左肩への十字

ロシア正教、日本へ①

司馬遼太郎の長編歴史小説「坂の上の雲」。司馬は晩年「坂の上の雲・秘話」の中で「フイクシオンを禁じて書くことにした」と語っている。

日清戦争、日露戦争を背景に明治という時代が描かれているが、司馬は「戦争を賛美すると誤解されかねない」と映像化、ドラマ化などの二次使用を一切許さなかった。しか

し司馬の死後、NHKの強いオファーに著作権を相続したみどり夫人が許諾し、テレビドラマ化された。これが二〇〇九年（H21）十一月から二〇一一年（H23）十二月まで足掛け三年にわたって放送されたNHKスペシャルドラマの特別番組である。私はそれまで「坂の上の雲」を読んだことはなかったが、二〇〇九年の第一部を見て感

動し、全六巻を買い求めた。明治という時代の青春を謳歌（おうか）し、自分の中の青春の血潮がたぎる思いがした。鎖国政策を改めた小国、日本が世界最強といわれたバルチック艦隊を撃ち破る：司馬が戦争を賛美していると誤解されると二次使用を禁止した気持ちがある。前置きが長くなったが、今回、書こうとしているのは、このドラマの一シーンを見て思い出した東京神田にある「ニコライ堂」正確

俳優、正岡子規と軍人の秋山兄弟を中心に描かれた「坂の上の雲」に

このドラマの中で魅力を感じた人物の一人が、藤本隆宏が演じた日本海軍の広瀬武夫である。彼は官費でロシアに留学し、流ちょうなロシア語を話したが、結果的には日露戦争で戦死した。ドラマの中でロシア人女性と恋をし、教会で「十字を切る」シーンがある。額



胸―右肩―左肩の順に。カトリック教会では額―胸―左肩―右肩の順で十字を切る。つまり横に十字を切ると、左右が逆である。それを見

た時、キリスト教の西方教会と東方教会のこのを思い浮かべた。

初代教会のころは一つであったキリスト教が東西に分裂し、一五四九年にフランシスコ・サビエルによって日本に初めて伝えられたキリスト教は西方教会のカトリック教会。一方、遅れること三百年後の一八六一年にニコライ・カサートキ

のが東方正教会のロシア正教なのだ。正確に言えばオーソドックス・チャーチ、つまり正教会（東方正教会）は中近東、バルカン半島、スラブ諸国を中心に二億四千万人の信徒を擁する。カトリック教会の教皇のような単独の統率者は存在せず、教会は国や地域ごとに自立している。ロシア正教会はその

中の一つで、このほかギリシャ正教会、ブルガリア正教会、ルーマニア正教会など世界百三十カ国に存在する。一八六一年に日本の函館に伝えられたロシア正教会は一九七〇年に日本正教会として自治自立する。正式な名前「日本ハリストス正教会」（ハリストスとはキリストのギリシャ語の発音）。従って東京

にあるニコライ堂はロシア正教の聖堂ではなく、日本正教会の聖堂なのである。先日、東日本大震災の被災地、大槌町から帰る途中、東京で下車してニコライ堂の神父を訪ねた。日本には約六十の正教会があるが、山口県はゼロ。余り知られてないので次回から東方正教会について報告する。



東京神田にあるニコライ堂